令和六年度　中学生の「税についての作文」

野田市教育長賞

一歩踏み出して

野田市立東部中学校　第三学年　深瀬　凜太郎

「よし、行こう」

そう心の中で言って今日も部活へと向かう。僕は駅伝部に所属しているため、秋の大きな大会に向けて頑張っていた。夏休みに入って部活はさらに厳しくなり一日に十キロ以上走ることがあたりまえの毎日だ。他の学校と合同で練習をする日は、競争心が芽生え練習をさらにきついものにさせる。このきつい練習にさらに拍車をかけるのが夏の暑さである。昔とは違い地球温暖化の影響で年々暑さが強くなっていく。この灼熱地獄の日々の中、練習場所である清水公園は木が多く、道も整備されているため、これが唯一の救いだった。木の木陰は中の水分が蒸発することで打ち水をしたときのように周囲の気温が下がるそうだ。さらに、ほこりを吸いつけて空気をきれいにする。このような恵みのある木々はどのようにして今日まで凛々しく立ち続けることができたのだろう。またそのようにするためにどうやって資金を集めているのだろう。と気になった。

調べてみると森林環境税という税が出てきた。地球温暖化対策として、森林の整備と保全以外にもさまざまなことに使われていた。中でも目に止まったことは自然エネルギー等普及促進という項目である。自然エネルギーは太陽、地熱、風といった自然現象の総称で、それらを利用してより環境をよくしていく。森林環境税は一人あたり年間千円。「なぜこんなことに税金を払うんだよ」と思う人もいるかもしれないが、僕達の身の回りでこの税の恩恵は重要なものであり、人類が生存していくためにも必要不可欠と僕は考える。日に日に暑さを増していくこの猛暑を止めることのできる唯一無二の税なのである。この税の存在意義の一つとして一人一人の団結を深めるきっかけをつくることができると僕は思う。「俺には関係ない」だとか「誰かがなんとかするだろう」という甘い考えではこの税の意義はない。人が団結しこの現状を変えていくということを、一人一人が意識していくことが何よりも地球温暖化の抑制などにつながるのである。

「こんなことにお金を使いたくない」ではなく、「森林を守るため、温暖化を防ぐための一員となって貢献しよう」といった考えに改め、一歩踏み出すことが大事である。

そして今日も僕は部活に行く。この夏休みをのりきるため、清水公園の木陰は命綱だ。森林を守るために税金を払えるようになったらよろこんで協力できるようにしたい。そして地球環境をよくするために行動できる大人になりたい。そう考えながら自転車をこぎ始めた。

「さあ、行こう。」